PDF版

眼障害を防ぐために

1 カラーコンタクトレンズを使用する場合には、リスクを十分に理解した上で、必ず眼科を受診し眼科医の処方に従ったレンズを選択するようにしましょう

市販のカラーコンタクトレンズには、レンズの品質（素材や着色剤）が原因で透明なコンタクトレンズよりも眼障害を起こしやすいものがありました。また、レンズの形状等が目に合っていないことが原因で眼障害が起こることもあります。

2 カラーコンタクトレンズを使用していて目に異常を感じた場合には、直ちに使用をやめ、眼科を受診することが重要です。また、異常がなくても、３カ月に１回は定期検査を受けましょう

カラーコンタクトレンズを使用していて目に異常を感じた場合には、重篤な眼障害を起こしている可能性があります。また、自覚症状がなくても眼障害が起こっている場合がありますので、定期検査を受けることが大切です。

3 レンズの使用期限を守り、繰り返し使用できるレンズの場合には、レンズケアを正しく行うことも大切です

誤った使用方法やケア方法が原因で眼障害が起こることがあります。

●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。
http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html

●本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。
http://www.kokusen.go.jp/

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、
被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。
特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。
商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。
無断転載はお断りいたします。

独立行政法人
国民生活センター
〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1　TEL.042 (758) 3165　●2014年7月発行
イラスト＝川崎　敏郎

くらしの危険 Number 320

カラーコンタクトレンズの安全性

瞳の色や大きさを変えられるとして若い女性に人気のカラーコンタクトレンズですが、使用により重い眼障害が起こったという報告が多数あります。

カラーコンタクトレンズには通常の透明なコンタクトレンズよりも眼障害を起こしやすい傾向がありますので、使用する場合には、そういったリスクを十分に理解した上で、必ず眼科を受診し眼科医の処方に従ったレンズを選択するようにしましょう。

カラーコンタクトレンズは高度管理医療機器です

カラーコンタクトレンズは、視力補正を目的としないもの（度の入っていないもの）でも高度管理医療機器です。通常の透明なコンタクトレンズと同様にレンズの使用方法やケア方法を誤ると、重い眼障害につながることがあります。

PDF版

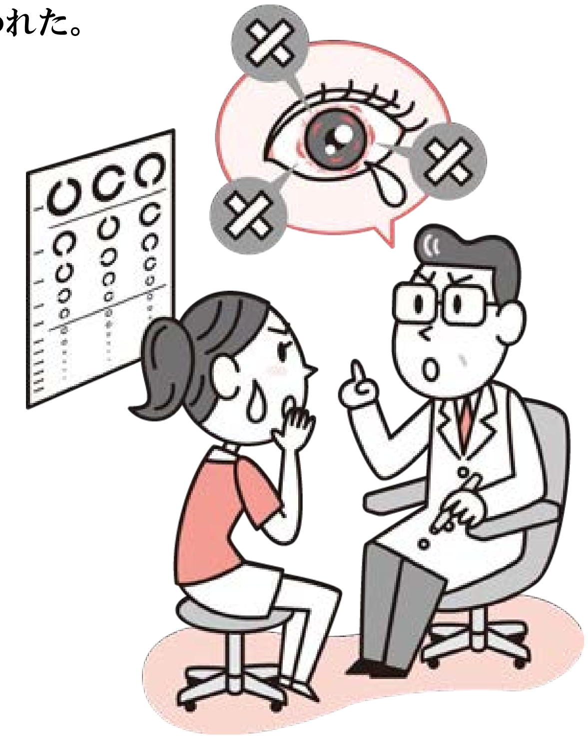
こんなトラブルが起きています

PIO-NET*1や医療機関ネットワーク*2には、カラーコンタクトレンズの使用により、角膜に傷がついたなどのトラブル情報が寄せられています。
特に、若い女性のトラブルが目立ちます。

*1　国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する情報を蓄積しているデータベース。
*2　生命または身体に被害を生じる消費生活上の事故情報を参画医療機関から収集し、国民への注意喚起などに活用することを目的として実施している事業。（消費者庁と国民生活センターの共同事業、2010年12月より情報収集を開始）

ケース1

中学3年生の娘が量販店でカラーコンタクトレンズをファッション用に買い、寝るとき以外は1カ月ずっと装着していたようだ。両目に痛みを感じ目が開けられなくなったと言うので眼科に連れて行ったら、医師に、「角膜に傷がついている。失明の可能性もあるので大きな病院を紹介する。」と言われた。
（10歳代・女性）



ケース2

カラーコンタクトレンズをインターネットで購入。目が痛くて眼科に行くとレンズに沿って眼球に傷がついていると言われた。
（20歳代・女性）

ケース3

友達とネットでカラーコンタクトレンズを購入。
1回目に目に入れたときには異常はなかったが、2回目に入れたら左目に眼痛、流涙があった。すぐに外して洗眼し、医療機関を受診して洗眼し薬を処方してもらったが、眼痛、流涙が止まらなかったので、別の医療機関を受診した。
（10歳代・女性）

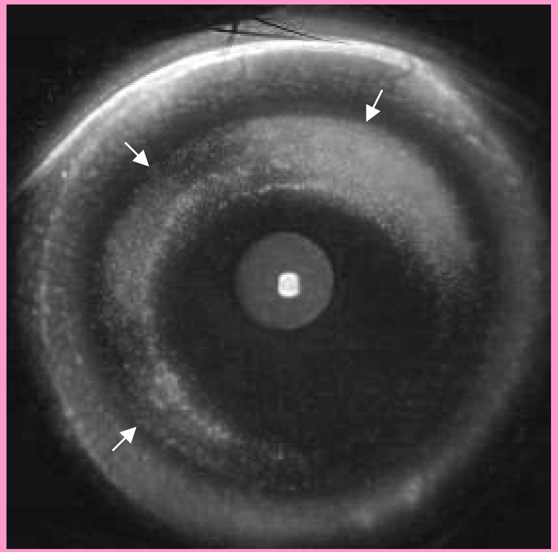
カラーコンタクトレンズの眼への影響を調べました

市販されているカラーコンタクトレンズを8時間装用したモニターのコンタクトレンズ矯正視力、眼障害の有無や程度を調べました。

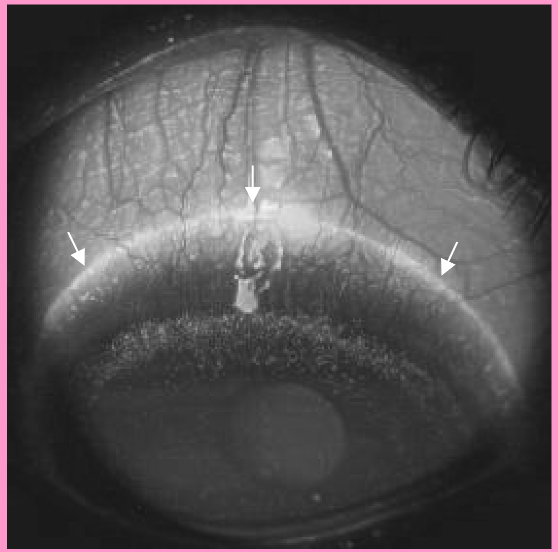
- カラーコンタクトレンズを8時間装用したときのコンタクトレンズ矯正視力は、モニターが通常使用している透明なコンタクトレンズよりも低くなることがありました。
- 治療やコンタクトレンズの装用中止等の対応が必要な程度の眼障害（腫れや傷、充血）がみられることがありました。これらの眼障害の中にはレンズの素材や着色剤の影響と考えられるものもありました。

眼障害の様子

角膜（黒目部分）にできた傷の例
レンズの着色部分に沿って傷がみられる



結膜（白目部分）にできた傷の例
レンズの縁部分に沿って傷がみられる



一方、治療やコンタクトレンズの装用中止等の対応が必要な程度の眼障害が起こっていても、痛みなどの自覚症状がない場合もありました。

カラコンの使用実態　使う側にも問題が・・・

10歳代、20歳代のカラーコンタクトレンズユーザー1,000人を対象に使用実態に関するアンケート調査を行いました。

★購入時に、眼科を受診したことがない人が4割以上

★定期検査を全く受けていない人が3割も

★目の調子が悪くなってもその半数は眼科を受診しない

★誤った使用方法やケア方法をしている人が多数

●このテストの詳細は（独）国民生活センターホームページ商品テスト結果「カラーコンタクトレンズの安全性－カラコンの使用で目に障害も－」で見ることができます。